

## 「復興構想会議」発言メモ

平成 23 年 5 月 10 日  
中鉢 良治

数次に渡る議論への参画および被災地視察を通じ、今後の議論を進めるにあたり、改めて認識を共有すべきポイントを示す。

### ■提言 1

- ①復興構想会議は阪神淡路復興委員会を先例として設置された会議体と認識している。その教訓に鑑み、復興に向けたマスタースケジュールと基本方針を早急に策定すべきである。
- ②復興構想会議は、被災者の想いを柱にしながら検討を進めるべきものである。
- ③基本方針の形式や織り込むべき内容についての議論を優先して行うべきである。

### ■提言 2

復興構想の基本方針に関する私案を提示する。

- ①『自然への畏怖、人間の尊厳、科学・技術の可能性を調和させた復興』
- ②『今、世界が抱える中長期的課題を解決する先駆的モデルとなる復興』
- ③『“優しそうで冷たい”保護ではなく、被災地の自立のための“厳しくも暖かい”支援を伴う復興』

以 上